

町長日誌

(7月3日～31日)



7月3日 ～4日	全国町村下水道推進大会 (福岡県)
6日	まちづくりフォーラム・地域医療講演会
7日	成田小見川鹿島港線整備促進協議会監査
8日	香取広域市町村圏事務組合議会臨時会 (香取市)
9日	社会を明るくする運動推進大会
11日	老人クラブ軽スポーツ大会
	酒々井インターチェンジ設置促進期成同盟会総会 (酒々井町)
14日	多古町議会臨時議会 総務省への要望 (東京都)
15日	成田小見川鹿島港線整備促進協議会定期総会 (香取市)
16日	芝山鉄道利用者駐車場管理運営協議会
17日	町交通安全対策協議会
18日	横芝・神崎間圏央道建設促進協議会総会 (成田市)
19日	ひかり納涼祭
20日	県無形民俗文化財舞台・収納庫落成式
22日	行財政研究セミナー (東京都)
23日	人権擁護委員第3ブロック研修会 農業委員会臨時総会
24日	東総地区広域農道運営協議会監査
25日	土木連絡協議会監査 2市4町合併ビジョン発表会 (成田市)
27日	町民謡連合会民謡発表会
29日	県道成田小見川鹿島港線要望(成田市) 町酪農組合総会
30日	第7回1市4町首長懇談会 (成田市) 平成19年度決算審査講評
31日	いきいきフェスタ実行委員会 成田国際空港都市づくり推進会議 (成田市) 成田空港に関する4者協議 (成田市)



「地域医療講演会」終了後、講師を務めた本田先生と握手する菅澤町長

災害への備えは万全ですか？

台風 地震

9月1日は『防災の日』

これから本格的な台風シーズンを迎える日本。

日ごろからテレビやラジオの気象情報に十分注意し、大雨による浸水や土砂災害の発生など、いざというときに素早い行動が取れるよう心掛けておくことが大切です。

そして、風水害以上に予測が難しい地震では、突然襲ってくる激しい揺れに、慌てず落ち着いて行動することが安全への第一歩です。

災害発生時に被害を最小限に食い止めるには、日ごろの準備と心構えが重要となります。『防災の日』を機に、各家庭でも話し合いをするなどし、災害時の連絡方法や避難場所、非常用の持出品などを確認しましょう。



非常用持出品リスト

- 現金、貴重品
【現金・免許証・預金通帳・健康保険証など】
- 救急医療品
【包帯・傷薬・ばんそうこう・胃腸薬・風邪薬など】
- 水、非常食品
【ミネラルウォーター・レトルト食品・缶詰など最低3日分】
- 器具類
【携帯ラジオ・懐中電灯・防災無線戸別受信機・乾電池など】
- 衣料品
【下着・上着・タオルなど】
- 乳幼児用品
【粉ミルク・離乳食・紙おむつなど】
- 多古町防災マップ・マニュアル
【平成17年9月に各世帯へ配布済み】

※これ以外にも、各家庭で何が必要となるか話し合ひましょう。



災害に備え、町でも「多古町建設災害協会の協力の下、土のう作りを実施この日だけで約800個が完成



地域医療について考える

「まちづくりフォーラム」が講演会を開催

地域医療の崩壊が大きな社会問題となる中、地元の医療崩壊だけは何としても防ぎたいとの強い思いから7月6日「多古町まちづくりフォーラム」主催による「地域医療講演会」がコミュニティプラザ文化ホールを会場に開催され、町内外から約600人が参加しました。

多古中学校プラスバンド部によるオープニングコンサートに続いて行われた講演会で講師を務めていただいたのは、埼玉県済生会栗橋病院副院長でNPO法人医療制度研究会副理事長の本田宏先生。

「病院はなぜ私達を診られないのか」医療崩壊の原因と改善への処方箋」と題して、全国的な広がりを見せる医師不足や診療科の休廃止、救急患者の「たらい回し」など現在の地域医療が抱えるさまざまな問題点や、今後取り組むべき課題等について、時折ユーモアを交えながら分かりやすく解説しました。

多古中央病院の経営改善と医療体制の充実を目指す本町にとっても参考となる話が随所であり、町長をはじめ、参加した多数の町および病院関係者も、真剣な表情で講演に聞き入っていました。



▲講演会に花を添えた多古中プラスバンド部の演奏



▶「公立病院の再生には、地域住民の理解と協力が不可欠」と語る本田先生